ＧＡＰ、酪農機械化推進　2018年度政府農業予算

2018年度の農林水産関係の政府予算は、概算で２兆3021億円となった。ほぼ前年度並みを確保し、十勝農業の振興につながる事業も少なくない。酪農家の労働時間短縮に向けた機械導入を引き続き支援。新規事業として、食の安全に取り組む農場に与えられるＧＡＰ（農業生産工程管理）認証の取得も後押しする。１日に成立した17年度補正予算を含め、ポイントを整理した。

農業全体　ＧＡＰ認証取得支援に６億円

国産農産物の競争力を高めるため、ＧＡＰ認証農家を増やす事業に約６億円を計上した。グローバルＧＡＰ、農水省が推進する日本版ＧＡＰなどが対象。「２年後の東京五輪での食材供給にとどまらず、五輪以降も見据えて輸出拡大などにつなげる狙い」（道農政事務所の帯広地域拠点）。

グローバルＧＡＰなどの指導員を早急に育成し、19年度末の認証取得件数を昨年４月時点から３倍以上に伸ばす政策目標を掲げた。

酪農・畜産　機械導入費の最大半分を助成

18年度予算では、酪農経営を省力化する事業に30億円が配分される。搾乳ロボットに加えて、牛舎内に散らばった餌を自動的に牛の近くに戻す「餌寄せ装置」などを想定。導入費用の半分を上限に助成する。正式な事業名は、酪農経営体生産性向上緊急対策事業。

多くの酪農家は朝晩の搾乳などで長時間労働を余儀なくされており、機械導入で時間短縮を目指す。乳用後継牛の預託施設の整備費用も対象。事業そのものの予算額は30億円だが、これとは別に、農畜産業振興機構（東京）でも機械導入などに50億円を用意する。

今年度補正予算では日欧の経済連携協定（ＥＰＡ）発効に備え、国産チーズの競争力強化が目玉となる。原料乳の品質向上に取り組み、一定の基準をクリアした酪農家には交付金を支払う。試食会を通じて国産チーズの普及も促進する。

畑作　イモやビート　生産性高める

昨年、ポテトチップスが品薄になったことを受け、農水省は18年度予算でジャガイモの増産に関する事業費の計上を求めていた。これが今年度補正に回り、「畑作構造転換事業」として30億円が盛り込まれた。

ジャガイモのほかビートなども対象となり、作業を省力化できる機械や新品種の導入などを支援する。

産地パワーアップ事業は管内で畑作主要４品や野菜での採択が多い。今年度補正で447億円。「販売額を10％以上増やす」など具体的な数値目標を設定した産地に、農機導入や集出荷施設の整備を助成する。

❖ 農林水産予算の主なポイント

18年度の概算決定額 2兆3021億円

- ▽農業次世代人材投資事業‥175億円
- ▽畑作物の直接支払交付金 ……2065億円（所要額）
- ▽収入保険制度の実施……260億円
- ▽酪農経営体の生産性向上緊急対策事業 ……30億円
- ▽GAP拡大の推進 ……6億円
- ▽中山間地農業ルネッサンス事業 ……400億円

17年度の補正予算額　4680億円

- ▼産地パワーアップ事業……447億円
- ▼畜産クラスター事業……575億円
- ▼国産チーズの競争力強化…150億円
- ▼畑作構造転換事業……30億円